

## 東日本大震災・緊急消防援助隊派遣を終えて



【所 属】 寝屋川消防署

【階 級】 消防司令

【名 前】 永田 昭一

東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災者の方々にお見舞い申し上げます。

我々、寝屋川消防署神田消防小隊は、震災当日の3月11日夜、大阪府第1次派遣隊として消防ポンプ自動車(タンク車)で出動し、約30時間で野営地である岩手県遠野市の遠野運動公園に到着しました。

13日朝、大阪府隊の消防自動車数十台がサイレンを吹鳴して釜石市街に入っていくと、津波の被害は想像を絶する悲惨なもので、目の前に広がった光景は今までに見たことがないものでした。我々に合掌している婦人、1台ごとに直立不動で敬礼している老人、立ち止まってお辞儀している人々、わざわざ家から道端まで出てきて手を振っている家族等、それらを見た隊員全員が目を潤ませており、それまでの疲労や睡眠不足はどこかに消え去りました。

他にも今回の派遣では様々な人々に遭遇しました。

釜石市役所付近で倒壊家屋やガレキの中を要救助者検索中に、父親が行方不明にもかかわらず近所の人々の心配をしている男性、避難所内で整然としている人々、14日の山林火災で津波の被害をまぬがれた家屋に延焼危険があるとのことで出動した火災現場で、家族を失った若い釜石消防署員、家屋が倒壊した釜石消防団員等の懸命な消火活動など、その使命感の強さには敬服しました。こうした人達ならば困難であろう復旧は、早期に実現すると確信しました。

最後に、ガレキの山で、また山林火災で黙々と活動した隊員を持ったことは、私の誇りとするところです。